

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	18	学校名	茨城県立大子清流高等学校				課程	全日制		学校長名	根本 常則					
教頭名	野内 正美								事務(室)長名	平根 栄一						
教職員数	教諭	13	養護教諭	0	常勤講師	0	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手	2	事務職員	0	技術職員等	0	計	20
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	森林科学科	19	0							19	0	1				
	総合学科	54	67							54	67	4				
	科															

2 目指す学校像

人間尊重の精神を基盤とし、社会の変化に主体的に対応できる、創造性や国際性に富む心豊かな人間を育成する。その達成を目指し、一人ひとりの生徒を大切に、対話を基本としたきめ細かい指導・自己の将来を深く考え、自分で将来の進路が決定できる能力の育成、地域と共生し、地域に根ざした教育を教職員の共通理解のもとに当たる。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路実現のための指導充実	本校生徒は進路問題を自らの問題として捉えて、真剣に取り組むのが遅い。	学校挙げて早期の進路指導に取り組み、各生徒の進路希望が100%達成できる出口指導を目指す。
学習実態	学習時間の確保が不十分である。	少なくとも、「学年+1」の学習時間を徹底させる。「資格取得」を目指した指導で興味関心を高める。
学力向上	自らが基礎学力から発展的な段階へ高めようとする意欲が低い生徒が多い。	習熟度別編成授業のきめ細かい指導により、生徒の学力伸長を図る。また、平常時と長期休業時の課外への参加率を高める。
生徒の学校生活の充実	生徒との面接時間を確保すること自体大変であるが、問題解決に欠かせない。	生徒一人ひとりに密接に関わり指導できることを目指す。

4 中期的目標

森林科学科・総合学科（人文科学，自然科学，農業，福祉系列）それぞれの特性を活かしつつ，学校間で学力向上の継続的指導や進路意識を高める指導等により，生徒の進路目標が達成できるように体制を強化する。また，地域からの信頼を高め，地域を担っていく人材の育成に努める。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	自発的学習態度の育成	(1) 学習意欲の喚起を図る授業展開の工夫 (2) 図書室・学習室の利用を促進 (3) 課外等への参加の促進 (4) 資格取得を目指す生徒の育成	
	指導体制の確立	(1) 習熟度別授業等による徹底指導 (2) 課外・研究授業の実施	
	規範意識の高揚と自己教育力の育成	(1) 「豊かな人間性を育む体験活動推進事業」等への参加により「他人を思いやる心」の育成	
	保護者・地域との連携	(1) 地域の教育力の活用（「地域の声」の把握） (2) ホームページを活用した学校教育活動の広報	
2年次	自発的学習態度の育成	(1) 学習意欲を持続させ，100%の進路達成を目指した徹底指導 (2) 課外等への参加の促進	
	指導体制の確立	(1) 習熟度別授業の継続的实施と成果の向上 (2) 個人の能力と進路目標に対応した指導の充実	
	規範意識の高揚と自己教育力の育成	(1) 「豊かな人間性を育む体験活動推進事業」等への参加により「他人を思いやる心」の育成 (2) 問題行動のない落ち着いた学校生活の確立	
	保護者・地域との連携	(1) 地域の教育力の活用（「地域の声」の把握） (2) ホームページを活用した学校教育活動の広報	
3年次	自発的学習態度の育成	(1) 学習意欲を持続させ，きめの細かい面接の指導による100%の進路達成を目指した徹底指導 (2) 課外等への参加の促進と生徒の実力の正確な把握	
	指導体制の確立	(1) 習熟度別授業の継続的实施と成果の向上と確認 (2) 個人の能力と進路目標に対応した指導の充実	
	規範意識の高揚と自己教育力の育成	(1) 「豊かな人間性を育む体験活動推進事業」等への参加により「他人を思いやる心」の育成 (2) 問題行動のない落ち着いた学校生活と社会人としての意識の確立	
	保護者・地域との連携	(1) 地域の教育力の活用（「地域の声」の把握） (2) ホームページを活用した学校教育活動の広報	